

日本文化政策学会主催

## 「文化財保護の歴史と政策」研究会開催案内

日本文化政策学会では、標記の研究会を下記により開催いたします。会員の方はもちろんのこと、会員以外の方でご関心ある方は奮って参加ください。

記

1.日時 2019年7月27日(土) 午後2時～4時30分

2.テーマ・発表者

【テーマ】 「発掘公団という幻影－基礎自治体に考古学者がいる国日本の前史－」

【発表者】 鈴木健吾 (東京大学大学院人文社会系研究科 文化資源学研究室修士課程)

【発表内容】

現在の日本の埋蔵文化財行政の特徴として考古学の訓練をつんだ職員の基礎自治体への配置は夙に指摘される。それは埋蔵文化財行政が高度経済成長期の国土開発との緊張関係の中で形成された日本の国情を映すが、高度成長と考古学／埋蔵文化財行政という観点は未だ乏しいのが現状である。

今回発表者は高度成長期の草創期自治体文化財行政への対抗言説として存在した「発掘公団」構想－埋蔵文化財行政の国営化による文化財保護－に注目し、高度成長期に自治体文化財行政ではない文化財政策が構想されたことを捉え、現在の埋蔵文化財保護体制形成過程の考察の一助としたい。あわせて当時の考古学界に広く見られる新中国の模範国視にも踏み込み、文化政策史と学術史・社会運動史との接点を探りたい。

3.会場 法政大学大学院 4階 401教室 (所在地住所 東京都新宿区市谷田町2-15-2)

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/campus/ichigaya/ichigaya.html>

4.参加費

会員および学生は無料。非会員は500円。

5.参加申込み

準備の都合もありますので、恐れ入りますが、参加される場合は7月21日(日)までに以下のメールアドレス宛てに氏名・所属・会員の有無をお知らせください。

[err-suda@jcom.zaq.ne.jp](mailto:err-suda@jcom.zaq.ne.jp) 須田英一 あて

6.懇親会

当日は研究会終了後に、有志で研究交流を兼ねて懇親会を開催したいと思います。こちらの会にも奮ってご参加ください。

7.研究会開催の趣旨

文化財政策は、近代以降の歴史的経緯の中で国－地方自治体というヒエラルキーのもとで確固たる制度に支えられて展開されてきている。だが、近年、文化財(文化遺産)は「まちづくり」の有効な資源としてもその活用が期待されている。このような状況下にある文化財に対し、歴史的な視点と現代的な課題を踏まえ、文化財の本質と今日的な政策や制度のあり方を探っていくことを目的とする。なお、本研究会では、今年度、継続的な研究発表会を約2ヶ月に1度のペースで開催していくことを予定している。

研究会担当者 馬場憲一(法政大学名誉教授) 須田英一(法政大学講師)